



ちゃれいばレター

Challeiba Letter

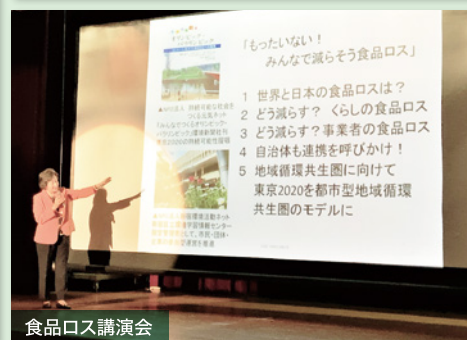
VOL.4
2020.3



ネットワーカー活動推進大会



寺子屋サルーン



食品ロス講演会



あいさつ・声かけ運動街頭啓発



コミュニティワーク実践講座

CONTENTS

[特集] P4-5

令和元年度

チャレンジいばらき
県民運動のつどい

P2 ネットワーカー活動推進大会

P3 コミュニティワーク実践講座

P6 みんなで教育を考える「いばらき教育の日」推進大会/
あいさつ・声かけ運動街頭啓発

P7 寺子屋サルーン/食品ロス講演会

P8 企業や大学との協働「パラスポーツ体験イベント」

令和元年度 ネットワーカー活動推進大会

令和2年2月21日(金) 茨城県県西生涯学習センター

共助の取組を広げよう!

現在、県内には、『地域活動員(ネットワーカー)』と呼ばれる方々(約1,000名)が各地で県民運動を広げています。このネットワーカーを一堂に会し、実践活動の事例発表や情報交換を通じた地域活動の活性化を目的に「ネットワーカー活動推進大会」を開催しました。

大会の前半では、県立下館工業高等学校ジャズバンド部の演奏による歓迎アトラクションの後、今年度新たに委嘱した地域活動員の委嘱状交付式を行いました。

後半は、茨城大学大学院の山田稔教授による移動支援をテーマとする基調講演が行われ、山田教授からは「支援を必要とする方々の多様なニーズを把握し、行政などに情報発信していただきたい。たくさんの方々の連携が、移動しやすいまちづくりにつながる。」とお話がありました。また、市民活動型サロン「たまり場・たろう」を主宰する小松崎登美子氏による事例発表に続き、実践活動を行っている3名のパネリストを加えて、パネルディスカッションを行いました。

最後に、コーディネーターの山田教授から「移動支援や居場所づくりなど、本日の発表を今後の地域活動の参考にしていきたい」旨の、まとめの言葉がありました。



新規委嘱地域活動員



下館工業高校ジャズバンド部演奏

パネルディスカッション

共助社会づくりに向けて

～移動支援と居場所づくりを中心に～



コーディネーター

山田 稔 氏(茨城大学大学院教授)

- ・皆さんのいろいろな活動の情報を共有し、それぞれが抱える悩みを共有することで、ますます活動が広がっていくと感じました。

パネリスト

小松崎 登美子 氏
(筑西市NW協議会会員。「たまり場・たろう」主宰)

- ・たまり場・居場所運営者の情報交換が大切。
- ・ネットワーカーの情報交換、つながりで、素晴らしい茨城県になるような気がする。

大和田 峯子 氏
(ひたちなか市NW連絡協議会会員。「おしゃべりサロンうきうき」運営グループ長)

- ・参加者の意見を聞いて多様な企画を行い、皆が楽しみながら活動できる居場所づくりを心掛けている。今後も継続したい。

佐川 憲一郎 氏
(「高倉地域づくりの会」事務局長)

- ・常陸太田市水府地区内で外出支援サービスを実施している。
- ・住民同士が支え合いながら住民の移動手段を確保することを目的とした、地域主体の移動支援サービス。

横須賀 聡子 氏
(「NPO法人セカンドリーグ茨城」理事長)

- ・水戸市内で「310食堂」(こども食堂)を運営。台風第19号の被災地区で、皆で集まって温かいものを食べる企画を実施。
- ・食を通して、地域の中に出会いとつながりをつくりたい。



「地域と生きる」「みんなで生きる」をつくる コミュニティワーク実践講座



今日、急速な人口減少・少子高齢化が進行する中、県民・団体・企業・行政等の連携・協働による、共助の活動が必要になっています。

このため、チャレンジいばらき県民運動では、今年度新たな取り組みとして、身近な地域課題の解決を支援する人材を養成するための講座「コミュニティワーク実践講座」を開講しました。

講座は、令和元年10月から令和2年3月までの連続講座で、共助社会の実現に向けた課題解決の手法を学ぶための講義4回と現地研修9回などを実施しました。

受講者からは「実践形式の講座で参考になった。」「地域活動の仲間づくりが出来た。」等の感想をいただきました。

今後は、講座修了生と地域とのマッチングを行い、共助による地域課題解決を推進していきたいと思います。



齋 典道 講師（社会福祉士、NPO 事務局長）

- ・ 地域の人々との連携による課題解決が大切。
- ・ 対話が重要。対話を重ねて「その取り組みで行うことは何か」「その取り組みを行う背景は何か」の共通認識を持ってほしい。



武田 信子 講師（大学教授、臨床心理士）

- ・ 「人をつなぎ、主体的に動き出すことができるように環境を整えること」が、コミュニティワーク。
- ・ 課題解決のスタートは、一人ひとりの話を丁寧に聞くこと。



現 地研修

台風第19号の被災地区において、地域の方々のご意見を伺い、すいとん、焼き芋などを被災された方もそうでない方も一緒に作って食べる機会をつくり、被災により分断された地域をつなぎ直す活動を行いました。

県民運動のつどい



令和元年度「チャレンジいばらき県民運動のつどい」を開催

令和元年12月5日(木)、水戸プラザホテルにおいて、公益財団法人げんでんふれあい茨城財団及び公益財団法人日立財団との共催で「チャレンジいばらき県民運動のつどい」を開催しました。

午前の部では、花と緑の環境美化コンクールの表彰と、花壇づくりに意欲的に取り組む団体への認定証交付を行い、花いっぱい運動のさらなる展開を図りました。

午後の部では、作文コンクールの表彰を行い、本県の将来を担う小・中学生に、自分の町の良さを見つめなおし、その魅力を伝えてもらうことができました。



●第47回 花と緑の環境美化コンクール

花いっぱい運動で、素晴らしい成果をあげている地域・団体・職場・学校を顕彰し、環境美化及び集団活動における優れた取り組みを広げ、花いっぱい運動が地域や団体に根ざした運動となるよう推進することを目的に実施しました。

応募数704点のうち、各市町村の審査を経て推薦された102点について、チャレンジいばらき県民運動に設置した「花と緑の環境美化コンクール中央審査委員会」の審査により、以下の27の団体・学校を表彰しました。



受賞団体・学校の
花壇の動画配信中



	部 門	市 町 村	団 体・学 校 名
茨 城 県 知 事 賞	フラワーロードの部	常 陸 太 田 市	松平老人クラブ
	おもてなし花壇の部	常 陸 大 宮 市	中居秋田自治会
	団 体・職 場 の 部	笠 間 市	旭町西区会
	学 校 の 部	常 陸 太 田 市	常陸太田市立太田小学校
	※茨城県知事賞を受賞した上記団体・学校は、2020年度から2023年度まで「花と緑の県民運動モデル」として指定されます。(4年間指定)		
茨城県教育委員会教育長賞	フラワーロードの部	牛 久 市	かみや緑の里親元気クラブ
	おもてなし花壇の部	坂 東 市	長須交通安全母の会
	団 体・職 場 の 部	常 陸 太 田 市	天神林笑楽会
	学 校 の 部	土 浦 市	土浦市立中村小学校
茨 城 新 聞 社 長 賞	フラワーロードの部	水 戸 市	国田の道路をきれいにする会
	おもてなし花壇の部	那 珂 市	一の関自治会一の関西フラワーロード
	団 体・職 場 の 部	牛 久 市	刈谷地区自治会
	学 校 の 部	大 子 町	大子町立大子西中学校
茨城県花き園芸協会会長賞	フラワーロードの部	那 珂 市	鷺内フラワーロード管理委員会
	おもてなし花壇の部	土 浦 市	土浦市並木一丁目健康クラブ
	団 体・職 場 の 部	土 浦 市	土浦市まりやま団地寿楽会
	学 校 の 部	常 陸 太 田 市	常陸太田市立佐竹小学校
茨城県造園建設業協会会長賞	フラワーロードの部	石 岡 市	東の辻二部環境美化クラブ
	おもてなし花壇の部	鉾 田 市	鳥栖新田老人会
	団 体・職 場 の 部	ひたちなか市	コマツ茨城工場 茨城なでしこプロジェクト
	学 校 の 部	常 陸 大 宮 市	常陸大宮市立山方南小学校
チャレンジいばらき 県民運動理事長賞	フラワーロードの部	取 手 市	小文間花街道実行委員会
	おもてなし花壇の部	水 戸 市	新一里塚町内会
	団 体・職 場 の 部	東 海 村	青少年育成東海村民会議石神支部
	学 校 の 部	城 里 町	城里町立桂小学校
茨 城 国 体・障 害 者 ス ポー ツ 大 会 局 長 賞	フラワーロードの部	該 当 な し	
	おもてなし花壇の部	土 浦 市	土浦市都和地区市民委員会環境部
	団 体・職 場 の 部	高 萩 市	株式会社常陽銀行高萩支店
	学 校 の 部	水 戸 市	水戸市立堀原小学校

審査講評

第47回 花と緑の環境美化コンクール

中央審査委員長 櫻井 茂幸

今年度受賞された花壇は、花に合った管理に加えて、メインとなる花壇をはっきりさせることにより全体が引き立っている花壇が多くございました。

花壇は、「きれいですね」「ご苦労様です」と会話が始まるきっかけとなり、地域のきずなを深め、コミュニティ活動の活性化にもつながるものと思います。また、茨城の未来を担う子どもたちの協力し合う心や勤労奉仕する精神、生命を大切にする心などを育むことができると思います。

花づくりは人づくり、そして地域づくりです。花いっぱい運動を通して、やさしさとふれあいのある茨城づくりや、おもてなしの心の輪が県内全域にますます広がっていくことをご期待申し上げます。

●令和元年度 花いっぱい運動定着化促進事業

花づくりを通して地域コミュニティの再生・活性化を図るとともに、花いっぱい運動がさらに定着し発展していくきっかけとなることを目的に、公益財団法人げんでんふれあい茨城財団との共催により実施しました。

応募のあった54の団体・学校について、チャレンジいばらき県民運動に設置した「花いっぱい運動定着化促進事業審査委員会」の審査により、以下の30の団体・学校を認定団体として選考しました。

市町村	団体・学校名
水戸市	上国井自治会 葉師樹林を再生する会
日立市	赤羽緑地を守る会
日立市	日立市諏訪交流センター
日立市	日立市立南部図書館サポーターズくらぶ
日立市	イトヨの里泉が森公園運営委員会
土浦市	朝日峠ハイキングコース整備ボランティア
土浦市	大学ボウリングボランティア
龍ヶ崎市	馴染地区花いっぱい運動連合会
龍ヶ崎市	浅間ヶ浦自治会
常陸太田市	常陸太田市東二町会
常陸太田市	常陸太田市折橋町会
常陸太田市	いばらきのケアサービスセンター resort 寿楽
取手市	やえす NT健康クラブ
ひたちなか市	東石川自治会
那珂市	杉女性防火クラブ

市町村	団体・学校名
筑西市	築地子供会
坂東市	富田交通安全母の会
かすみがうら市	シティーナ神立 ガーデン部
鉾田市	上富田松久保会
茨城県	長岡第二高年者クラブ
利根町	利根町 羽根野台自治会 (フラワープロジェクト)
利根町	利根フレッシュタウン栄寿会
石岡市	茨城県立石岡特別支援学校
結城市	結城市立結城南中学校
つくば市	つくば市立要小学校
ひたちなか市	ひたちなか市立長堀小学校
鹿嶋市	鹿嶋市立大野中学校
守谷市	茨城県立守谷高等学校 JRC部
東海村	東海村立村松幼稚園
東海村	社会福祉法人 愛信会 さちのみ認定子ども園



●令和元年度 作文コンクール

未来を担う子どもたちに、茨城の豊かさや暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさに加え、茨城の科学技術を再認識してもらうため、公益財団法人日立財団との共催により作文コンクールを実施しました。今年度は「わたしの住む町」をテーマに県内に通学する児童・生徒を対象に作文を募集したところ、12,435点の応募があり、チャレンジいばらき県民運動に設置した「作文コンクール審査会」の審査により45名を表彰しました。



部門	学校名	学年	氏名	作品名
茨城県知事賞				
小学校低学年の部	神栖市立やたべ土合小学校	2年	平野 雄大	この夏のであい
小学校高学年の部	常総市立豊岡小学校	6年	成田 帆花	だが生屋のおばあちゃん
中学校の部	水戸市立国田義務教育学校	7年	戸崎 千尋	私がいる茨城の中の二つの町
日立財団 小平記念賞				
小学校低学年の部	つくば市立島名小学校	3年	眞家 花奈	
小学校高学年の部	つくば市立秀峰波義務教育学校	4年	川端 陽太	
中学校の部	つくば市立大穂中学校	2年	高島 怜也	
茨城県教育委員会教育長賞				
小学校低学年の部	日立市立久慈小学校	2年	神白 芽里	
小学校高学年の部	石岡市立小桜小学校	5年	塚田 陽菜	
中学校の部	つくばみらい市立伊奈中学校	1年	小林久美香	
茨城新聞社長賞				
小学校低学年の部	水戸市立常盤小学校	1年	菊池 颯真	
小学校高学年の部	石岡市立高浜小学校	6年	廣原 瑛太	
中学校の部	古河市立三和北中学校	3年	指首 雄太	
チャレンジいばらき県民運動 理事長賞				
小学校低学年の部	取手市立宮和田小学校	3年	関下 拓海	
小学校高学年の部	那珂市立瓜連小学校	6年	足田 真優	
中学校の部	桜川市立若瀬西中学校	2年	荒木 優作	
日立財団 奨励賞				
小学校低学年の部	つくば市立校南小学校	1年	桑田 咲月	
	坂東市立若井第二小学校	1年	落合 凱飛	
	石岡市立石岡小学校	2年	中島 琉夏	
	ひたちなか市立長堀小学校	2年	高橋 英之	
	東海村立白方小学校	2年	齋藤陽和花	
	日立市立大沼小学校	3年	小泉こころ	
	結城市立江川南小学校	3年	一ツ木夏菜	
	北茨城市立精華小学校	3年	小松崎奏吾	
	つくば市立みどりの学園義務教育学校	3年	関根 社良	
	筑西市立鳥羽小学校	3年	穂積 里紗	
日立財団 奨励賞				
中学校の部	茨城大学教育学部附属中学校	1年	佐々木あすか	
	土浦市立土浦第四中学校	7年	井口 裕貴	
	筑西市立下館中学校	1年	古橋葉津香	
	大洗町立南中学校	1年	近澤 夏海	
	水戸市立赤塚中学校	2年	岩崎 真麻	
	土浦市立土浦第一中学校	8年	染谷 音羽	
	高萩市立秋山中学校	2年	作山 叶恵	
	茨城県立並木中等教育学校	2年	菅原 紡宜	
	日立市立助川中学校	3年	松下 彩葉	
	東海村立東海南中学校	3年	相澤 南夏	

受賞作品集は
こちらから



部門	学校名	学年	氏名
日立財団 奨励賞			
小学校高学年の部	取手市立桜が丘小学校	4年	菊地 花音
	ひたちなか市立東石川小学校	4年	熊谷 桜子
	稲敷市立江戸崎小学校	4年	平山 陽菜
	土浦市立都和小学校	5年	和地 夏希
	ひたちなか市立那珂湊第三小学校	5年	網代 彩葉
	常陸大宮市立大宮小学校	5年	益子 成美
	那珂市立菅西小学校	5年	笹島 佳祐
	つくば市立基崎第三小学校	5年	大河内彩風
	龍ヶ崎市立八原小学校	6年	工藤 賢信
	牛久市立牛久小学校	6年	北村 千華
日立財団 奨励賞			
中学校の部	茨城大学教育学部附属中学校	1年	佐々木あすか
	土浦市立土浦第四中学校	7年	井口 裕貴
	筑西市立下館中学校	1年	古橋葉津香
	大洗町立南中学校	1年	近澤 夏海
	水戸市立赤塚中学校	2年	岩崎 真麻
	土浦市立土浦第一中学校	8年	染谷 音羽
	高萩市立秋山中学校	2年	作山 叶恵
	茨城県立並木中等教育学校	2年	菅原 紡宜
	日立市立助川中学校	3年	松下 彩葉
	東海村立東海南中学校	3年	相澤 南夏

審査講評

令和元年度 作文コンクール

審査委員長

茨城大学教育学部教授

川嶋 秀之

今年度の作文テーマは「わたしの住む町」としました。自分の住んでいる町の暮らしや風景、紹介したい町の人、助け合い、科学技術を使った町づくりなど、自分の町の良さを見つめなおしその魅力を伝えてもらおうと思ったからです。

生まれて初めてカブトムシを捕った体験を書いた作文、近所の駄菓子屋のおばあちゃんの姿を描いた作文、那珂市菅谷と水戸市国田という好きな町二つに住む幸せを書いた作文、また「つくばちびっ子はかせ」というスタンプラリーについて書かれた作文などがありました。

作文を読んでおきますと、それぞれの町の風景やそこに住む人々の姿が多様かつ個性的で、あらためて茨城の広さと魅力を感じることができます。

ご指導に当たられた各学校の先生方に謝意を表し、講評と致します。

第20回記念

みんなで教育を考える 「いばらき教育の日」 推進大会

令和元年11月1日（金）にザ・ヒロサワ・シティ会館において、第20回記念みんなで教育を考える「いばらき教育の日」推進大会が開催されました。

この大会は、毎年11月の「いばらき教育月間」の取り組みとして開催されており、今回で20回目を迎えました。大会では、県民みんなで教育を考え、学校・家庭・地域社会が連携して、明日の茨城を担う子どもたちを育成することの重要性を伝えています。



大谷徹英氏講演会



書道パフォーマンス

大会前半では、県内の児童・生徒の優秀標語、善行及び優秀教職員の表彰に続き、水戸葵陵高等学校書道部による書道パフォーマンスが行われました。後半の記念講演では、奈良・薬師寺執事長 大谷徹英（おおたにてつじょう）氏の「幸せの条件」と題した講演会が行われ、人は、縁によって出会っている。そして出会いは「よっぽどの縁」であること。「身心安楽」による「幸せ」をつかむためには、「人間関係」が大切であることについてお話がありました。

あいさつ・声かけ運動街頭啓発



「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションの輪を広げる運動です。毎年11月のいばらき教育月間に、県内の主要鉄道駅で街頭啓発を実施しています。



今年度も小学校から高校までの児童・生徒や青少年育成団体、チャレンジいばらき県民運動などたくさんの参加があり、「おはようございます」の元気なあいさつと、大人や子どもたちの笑顔の返事で、気持ちの良い一日となりました。



寺子屋サルーンを開催しました

第20回 10/20日

自立に悩む若者と保護犬の再出発



上山 琴美 氏



10月20日（日）に、第20回寺子屋サルーン「自立に悩む若者と保護犬の再出発」を開催しました。講師は、NPO法人キドックスの代表理事である上山琴美氏です。

キドックスは、保護犬の譲渡活動やカフェの運営などを通じ、不登校や引きこもりなどの悩みを抱える若者の自立支援を行う団体です。当日は、参加者同士の意見交換を通して、当事者への理解を深めました。

第21回 1/25日

イノシシレザーに学ぶ！身近な地域資源の活かし方

1月25日（土）には、第21回寺子屋サルーン「イノシシレザーに学ぶ！身近な地域資源の活かし方」を開催しました。講師は、イノシシレザーのブランド「サングリエ」を立ち上げた瀬川礼江氏です。瀬川さんは、狩猟免許と猟銃所持許可を取得し、これまで捨てられていたイノシシの皮を鞣し革にして作品づくりをしています。当日は、イノシシレザーを使ったアクセサリー制作を体験し、地域資源の活用について考えました。



瀬川 礼江 氏

寺子屋サルーン参加者のご感想



世の中に無駄なものはないと今更ながら考えさせられました。

私がライフワークとしている環境活動にも活かしたいと思います。



地球からのSOSが聞こえる!!

食品ロス講演会を開催



令和元年10月に「食品ロス削減推進法」が施行され、食品ロスを減らす動きが広がりつつあります。

今回は、消費者の視点でエコライフ運動に取り組んでいる茨城県生活学校連絡会が令和元年10月20日（日）に潮来市立潮来公民館で開催した講演会の様子を紹介します。

ジャーナリストで環境カウンセラーの崎田裕子氏の講演では、「国内の食品ロスの量は年間643万トンで、これは国連機関が世界を支援する年間の食料援助量の2倍である」ことなどを説明。「調理のとき、食材を無駄にしない」「保存のとき、忘れない配置に」「食べきれない食材はフードドライブへ」など、「もったいない」を意識しながら一人ひとりができる取り組みについてお話いただきました。

また、古着（着物）のリメイクショーも開かれ、子どもから大人まで、ファッションモデルさながらリメイクされた洋服

を着こなし、会場を沸かせていました。



プラスチック関連

容器包装リサイクル法の関係省令が改正され、本年7月1日から全国一律でプラスチック製買物袋の有料化がスタートします。

チャレンジいばらき県民運動では、涸沼や霞ヶ浦の清掃活動をとおり環境問題への取り組みを引き続き推進していきたいと考えています。





パラスポーツ体験イベント 「つくパラ・2020」

令和2年2月9日(日)
つくば市立桜総合体育館



株式会社カスミが企画した障がい者スポーツの体験イベントに参画。この中で、つくば市ネットワーカーの会は、TSSボランティアTRICOLOR（常磐大学・常磐短期大学）と連携・協働してワークショップを実施しました。

来場者にハンドアーチェリーのピンづくりに挑戦していただいたり、パラスポーツをモチーフにしたフェイスペイントや撮影スポットでの記念撮影など、間接的な遊びや楽しみを通じて、パラスポーツを知ってもらい、障がいの理解促進につなげる場となりました。



つくば市ネットワーカーの会コメント

誰もが住みやすく、助け合える社会づくりに向けてどのようなことができるのか、今回の常磐大学のみなさんとの活動の中でたくさんの学びがありました。今後の活動に活かしていきたいと思います。



TSS ボランティア TRICOLOR コメント

今回の企画は、障がいを考える良い機会となりました。また、ネットワーカーさんとの世代を越えた活動は大変貴重な経験でした。これからも地域のみなさまと共に豊かな未来づくりに向けて活動していきたいと思います。

投稿記事を募集しています！

チャレンジいばらき県民運動では、地域の様々な活動をPRするために、「地域活動投稿フォーム」をホームページ上に開設しています。

これは、茨城県内各地域の情報や、地域活動員（ネットワーカー）の活動を投稿していただくものです。投稿していただいた内容は、広報紙「ちゃれいばレター」や当県民運動ホームページ上でご紹介していければと考えています。

「こんな活動をしています」や「こんなイベントがあるよ」などの情報がありましたら、ぜひ、お気軽に投稿してください。



チャレンジいばらき県民運動会員募集

チャレンジいばらき県民運動では、福祉・環境、青少年、防犯など様々な分野での地域活動・市民活動を、県民・団体・企業・行政が手を繋いで支え合い、共助による新しい茨城の実現に向けて、社会の課題に挑戦する県民運動を展開しています。

このような趣旨にご賛同され、運動に参加していただける団体・企業、個人の会員を募集しております。

◆団体会費(年) 10,000円

◆個人会費(年) 2,000円



チャレンジいばらき県民運動 広報紙

令和2年3月1日発行（発行）チャレンジいばらき県民運動（編集）県民活動推進員（魅力発見・発信グループ）

お問い合わせ

チャレンジいばらき県民運動 事務局

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸1-5-38 Tel.029-224-8120 Fax.029-233-0030

ホームページ ▶ <https://challenge-ibaraki.jp> E-mail ▶ info@challenge-ibaraki.jp

